

# 表現の工夫

月 日 時間目

文章を読むときには、いろいろな表現の工夫に注目してみましょう。  
 表現の工夫から、著者の意図（考えや目的）にせまることができますよ。



表現の工夫		効果	
文末	強調	オノマトペ フランス語だよ 	比喩
	体言止め	擬声語 擬態語 擬音語	直喩 隠喩 擬人法
文の長さ	短い	文章にリズムが生まれる。	あるものを別のものに例えて、イメージを想像しやすくする。
	長い	ゆるやかで、おだやかな雰囲気になる。	リズム感が生まれ、躍動的な雰囲気になる。
文体	敬体	丁寧な印象や改まった印象を与える。 〜です。〜ます。〜ございます。	読み手の興味をひくことができる。 〜だろうか。〜でしょうか。
	常体	普段と同じ、親しみやすい印象を与える。 〜だ。〜である。〜いる。	かみそりの刃の <u>ように</u> とがった。 富士山は身近にあるお天道様だ。 富士山が <u>じつと</u> 見ている。 ザバーン、ザバーンと轟音がとどろく。 舟ペリに <u>ぺったり</u> へばりつく。 犬が <u>ワンワン</u> ほえた。 念仏を唱えるのだ、手を合わせ て。 <u>すごい</u> なあ、次の瞬間にこれは <u>すごい</u> ことになるなあ。 木で造った和舟が <u>一、二、三</u> 。
倒置法	文の成分の順番をかえて、印象を強める。		
反復法	同じ言葉を繰り返すことで印象を強める。		